

地球温暖化防止対策

地球温暖化防止のために、事業活動の全領域を通じて、工場や事務所での省エネルギー対策や物流改善・リサイクルの促進などに取り組んでいます。

事業活動にともなう温室効果ガス排出量の削減

FDKグループでは、地球温暖化の防止のため、コージェネレーションなどの省エネルギー対策設備の導入や既存設備の運用管理改善などにより、エネルギー消費CO₂発生量の削減に取り組んでいます。

第四期環境行動計画の目標

エネルギー消費CO₂排出量を、2010年度末までに2006年度実績比2%削減する

省エネルギー活動

2007年度は、昨年度に引き続き以下のような省エネルギー対策を実施してきました。また、全社事業革新運動による省エネルギー効果も得られています。例えば、生産効率向上による、製品単位当りのエネルギー削減や従来よりも少ないエリアでの仕事を可能としたことで、冷暖房や照明などの電力を削減できたことなどです。クールビズについても、継続して取り組んでいます。

- 省エネルギータイプの空調機導入
- 省エネルギータイプのコンプレッサー導入
- 省エネルギータイプの照明器具の導入
- 変電所の機器を省エネルギータイプに更新
- 空調温度の適正化、照明、OA機器の節電対策
- 設備の運転条件や運用管理見直しによる省エネルギー対策

こうした取り組みの結果、エネルギー消費によるCO₂の排出量は24,543トンとなり、昨年度比では6%減少しました。これは省エネルギー活動に加え、液晶バックライト用インバータモジュールなどの生産高が減少したことが影響しています。

なお、FDKグループの国内生産拠点では、1990年度比では63%削減しており、京都議定書削減目標である「温室効果ガスの排出量を1990年比6%削減」を大幅に達成しています。これは、省エネルギー活動に加え、事業構造改革に伴ない、エネルギー消費の大きなフェライト製品などの生産から、モジュール組立製品等の生産にシフトしてきたことが大きく削減に寄与しています。

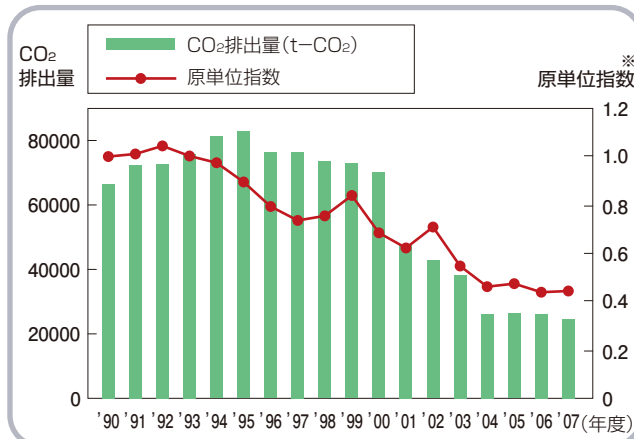
CO₂削減の啓蒙と家庭での削減

FDKのイントラネットホームページでは、地球温暖化に関する教育や啓蒙について情報発信するとともに、家庭でのCO₂削減についても協力を働きかけています。2007年度は、環境省でよびかけている「ブラックイルミネーション2007」を受けて、従業員の家庭において部屋の灯りやテレビなどの「デンキを消して、静かな夜を」過ごすことをお願いしました。また、洞爺湖サミット開催の2008年7月7日には、各事業所単位で事務所の照明消灯に取り組みました。

CO₂以外の温室効果ガス

京都議定書における温室効果ガスの排出削減対象物質には、CO₂、メタン、亜酸化窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六フッ化硫黄の6種類があります。当社グループでは、CO₂以外の温室効果ガスの排出がないことから、CO₂の排出削減に取り組んでいます。

CO₂排出量の推移



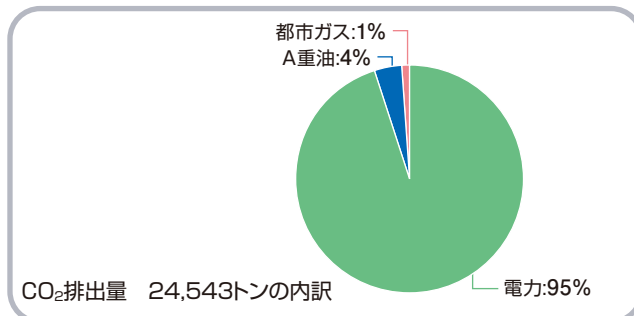
※ 原単位指数: '90年の生産高原単位を1とした指数

CO₂排出量 単位 (t-CO₂)

'90	'91	'92	'93	'94	'95
66,468	72,443	72,793	75,742	81,265	82,790
'96	'97	'98	'99	'00	'01
76,239	76,493	73,516	72,877	70,071	47,382
'02	'03	'04	'05	'06	'07
42,811	38,228	26,146	26,318	26,239	24,543

※ 電力からの換算係数は、0.555t-CO₂/MWhを採用したので、これまでの排出量を見直しました。

種類別の状況



物流における環境配慮

FDKグループでは、お取引先からお客様までの配送物流業務は全て外部に委託しています。輸送事業会社の協力を得ることなどで輸送におけるCO₂の削減や、包装材の再利用化に取り組んでいます。

第四期環境行動計画の目標

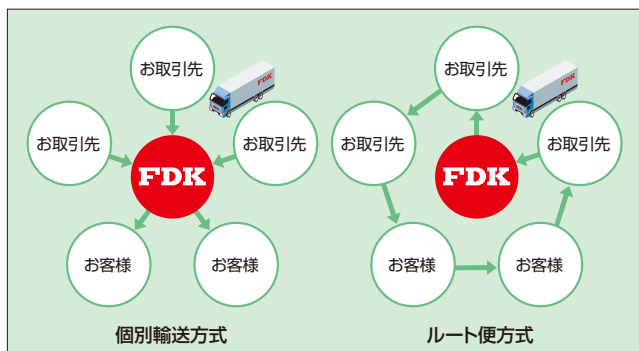
輸送CO₂排出量の削減

ルート便の展開と共同輸送への取り組み

FDKからお客様までの製品輸送と、お取引先からFDKまでのトラック運搬を従来の個別輸送方式から、多地点を巡回して搬送する形態の「ルート便方式」を国内全域へ展開してきました。この方式により納入リードタイムや仕掛品の削減だけでなく、トータルの運送距離を短くすることでトラックから排出するCO₂の削減を目指しています。

トラックの積載効率が輸送時のCO₂削減につながるため、他社の荷物と混載で輸送する「共同輸送」にも、輸送事業会社の協力を得て2006年度から継続的に取り組んでいます。

配送形態図



非満載のトラックチャーター便の削減

2007年度の新たな取り組みとして、非満載便のトラックチャーター便を廃止して、一般便に切り替える活動を行いました。活動の結果、昨年度比で12便/月のトラックチャーター便を削減することができました。

モーダルシフトへの取り組み

JRの貨物輸送を使ったモーダルシフトによる、輸送CO₂の削減についても現在、検討を進めています。

梱包改善による輸送時の積載効率向上

FDKで使用している原材料・製品の梱包材は、従来は主に段ボール箱を使用していましたが、お取引先およびお客様の協力を得て、リサイクル利用が可能な通いコンテナ(TPトレイ)を順次拡大しています。そして、段ボール包装品においても包装材を削減するなどの積載効率向上のための改善や再利用を進めています。また、包装材となる資源の使用量削減にも取り組んでいます。

一方、全社で取り組んでいるTPS(トヨタ生産方式)の推進により「ムダなモノを輸送しない」、「必要なモノのみ輸送する」の思想で輸送量の最適化・最小化にも努めています。



トンキロ把握システムの構築

貨物の輸送活動をとらえる指標の輸送トンキロは、輸送重量のトン数と輸送距離のキロメートルを乗じたものです。2006年4月から改正省エネ法が施行され、荷主においては、自らの事業活動に伴って委託あるいは自ら輸送している貨物の輸送量が年間3,000万トンキロ以上の事業者には該当する場合は、「貨物の輸送量届出書」の提出が必要となりました。FDKは、これに該当していないので報告義務はありませんが、2007年度は、このトンキロを集計するためのシステムを構築し、月毎のデータを社内イントラネットに掲載して管理しています。

今後は、輸送トンキロの把握だけでなく、輸送CO₂排出量の把握に取り組めます。